
明日という名のもと

ワディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

明日という名のもと

【Nコード】

N0486L

【作者名】

ワディ

【あらすじ】

西暦2021年、人類が直面した危機。圧倒的な力で人類に襲い掛かる謎の生命体『イザナギ』。その対策として、人類が10年前から開発を進めていた母なる『イザナミ』から生まれた「ガ計画」。本格的に動き出した計画だが、その実態は人類を『守る』ことなのか。計画に隠された謎、そして、突然パイロットに選ばれた「波賀ありま」を始めとした三人の子供たちの運命は、次第に人類や宇宙の存在に関与する。謎の存在『機関』、そして『ゲネシス』とは・・・？ 謎が謎を生む物語は、水没した東京から始ま

る。

序 『旧東京都』（前書き）

西暦1986年。

人類は、史上最も大きな発見をした。

太平洋の海底8000メートルで発見された、生物ともいえる「ものの」。

「偉大な発見」「尊大な意味づけ」「人類の祖たる存在の解明」など学者等は、ここぞとばかりにその得体の知れない「もの」に心を動かされた。

その発見された「もの」は『イザナミ』と名づけられた。

イザナミとは、日本神話に登場する神であり、この世を創り出した女神である。

神の名を冠したイザナミは、国連主導の元、大規模な調査が進められた。

生物学、有機生物学、光学、神話学、進化学：

世界中の有能な学者達を集めて結成された、国連直属の調査機関「多角的未認識生体調査委員会」により始まった調査は、14年に及ぶものであったが、そのデータは膨大で、意味をなす結果は出なかった。

膨大な費用、時間、そして委員会に対し調査予算を提供していた諸国の不満などが重なり

やがて国連自体の関心が薄まり、それに合わせる形で予算は大幅に削減。

調査結果を手土産に、公式に世界中に発表し、自分の名を上げようと必死であった委員会は、活動を停止した。

この調査がもたらした成果は、国連により極秘となり、一部の関係者のみにしか知らされることはなかった。

時は過ぎ、2002年。

アポロ計画以来、月には有人飛行を行っていなかった。

技術は進み、火星にもその目を向けたアメリカ、ロシアを中心とした宇宙開発先進国。

計画の一端として、米露共同開発の無人軌道衛星「ルナティック」は、同年10月に宇宙に打ち上げられた。

目的は、月面の立地の条件探査である。

宇宙基地の開発という壮大なプロジェクトの狼煙は、2010年をめぐりに月に造られることとなる。

しかし、ルナティックが映し出した月面の地下映像には、基地の建設という夢を大きく壊すものが映りこんでいたのであった。

序 『旧東京都』

時間は午後の6時を回っていた。

ドアをノックする音で、本を読んでいた手が止まった。

「・・・入れ」

低い中年の男が、ドアに向かって言う。

すぐさま、慣れたような声で、ドアの向こう側から返事がした。

「失礼します。」

スーツを着た、20代後半の眼鏡を掛けた男性がドアを開け、部屋に入り、カッチャンとドアをゆっくりと閉めた。

部屋には本がずらりと並んでいる。

政治や外交、地理や歴史など、本棚にびっしりと積まっていた。

部屋の正面の机は高級感に溢れ、いかにも高そうである。

その机の椅子に寄りかかり、本を読んでいる男がいた。

「なんのようだ。また法案の見通しが立たないと騒ぎ出したか」

先ほどの中年の男である。

「いえ、査察団の一行がお見えです。何回かお電話を差し上げたのですが、お出にならなかったのです」

眼鏡の男性が、透き通った声で話しかけるが、男は本から目を離さない。

しかし『査察団』という単語を聞くと、本をボタンと閉じて目を合

わせた。

「なに、査察団だと？ 予定では明日のはずだ」

「はい、急遽のことでした。なのでお電話を・・・」

男性はふと机の上に置いてある電話を見た。回線が抜かれていたのである。

それに気づいたように、中年の男がすかさず言う。

「本を読むときは邪魔が入らんように抜く。査察団は今どこだ」

「ドアの向こうで、代表のバート大佐がお待ちです。」

「気に入らん。わざわざ中央の人間を送り込んできたか。」

「大佐は国連外交省の副大臣です。中央との関わりはないのでは？」

「外交省全体が中央の駒だ。その副大臣・・・中央の考えが影響していることなど察しがつく。」

そう言って、中年の男はネクタイを締めなおし、スーツの上着を着た。

「通せ。」

眼鏡の男性は、ドアに向い「どうぞ、お入りください」と呼びかけた。

ドアから入ってきた男性は、茶い髪でグレーの正装、30代のアメリカ人である。

身長は190センチほどはあろうか。

この男性はジョン・バート大佐。

国連外交省の副大臣で、若干29歳で国連公務員のキャリア官僚の執行部選ばれた秀才である。

その主立ちには、どこか気品に溢れたものを感じる。

「ミスター黒崎、お会いできて光栄だ。」

バートは流暢な日本語で、中年の男を黒崎と呼んだ。

「バート大佐、遠路はるばるお越しいただき、こちらこそ感謝申し上げます。どうぞ、お掛けになりなさい」

黒崎は先ほどのふてぶてしさを捨て、誠実に、どこか見下した言葉で中央のソファにバートを案内した。

二人は向い合わせに座り、黒崎は眼鏡の男性にコーヒーを二つ入れるように指示をした。

「ミスター黒崎、突然の訪問をお許し願いたい。天候のせいです。明日はスコールと聞きました。飛行機が飛ばなくなつては、ミスター黒崎のご多忙の予定を狂わしかねないと思ひまして。」

「大佐、担当直入にお聞かせ願おう。わざわざあんたがここに来た理由を。」

黒崎は剣幕を変えて、突然バートに言い放った。

バートも、先ほどの穏やかな表情を変え、真剣な顔になる。

「解っているようで、ミスター黒崎。それなら話が早い。メーゼについてです。」

序 『旧東京都』 (後書き)

ぜひ、感想をよろしくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0486/>

明日という名のもと

2010年11月22日23時10分発行